

基本施策評価表

所属 22500000

保健福祉部 健康増進課

政策	43 健康づくりの充実								
区分	妥当性		妥当	コスト削減の余地		有	受益者負担		適正
	上位貢献度		有効	類似事業の有無		無	成果向上の余地		有
対象	市民								
施策が目指す姿	市民の健康を保持するための総合的な取り組みや意識の啓発を図るとともに、妊娠・出産・乳幼児期を通して親と子の健康を確保する。								
成果指標	1 健康づくり対策に対する市民満足度... 80.0% (現状値60.90%) 2 標準化死亡比 (SMR) がん ... 95.0 (現状値97.10%) 3 標準化死亡比 (SMR) 心疾患 ...100.0 (現状値117.70%) 4 標準化死亡比 (SMR) 脳血管疾患 ...100.0 (現状値141.20%)								
目標達成状況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	成果指標 1 [%]	予定					80.00		
		実績	0.00						
	成果指標 2 []	予定	99.80	98.60	97.40	96.20	95.00		
		実績	104.70						
	成果指標 3 []	予定	113.30	110.00	106.70	103.40	100.10		
		実績	113.20						
	成果指標 4 []	予定	140.60	130.50	120.40	110.30	100.20		
		実績	156.70						
	トータルコスト (千円)	予定	1,517,002	1,526,014	1,612,738	0	0		
実績		1,412,030	1,535,136	1,612,738	0	0			
内部評価	貢献度		乳幼児期から早期に健康づくりを支援し、検診や教室等による早期発見・健康増進を図ることは、健康で生きがいを持てるまちづくりに大きく貢献する。						
	達成状況		心疾患の死亡比は減少しているが、がんは昨年度よりわずかに上回り、また、脳血管疾患では目標値を大きく上回っているため達成できていない。						
	課題		特に脳血管疾患死亡の成果が得られていないため、基礎疾患対策について重点的に取り組んでいくことが必要である。						
	取組方針		関係団体等と連携を図りながら、健康増進計画における各重点領域において健康づくり支援を行う。						
外部評価	指標にある三大疾病に対する標準化死亡比では、本市の比率は高いと思われる。対策を講じて、すぐに成果が表れる数値ではないと思われるので、長期的な視点で、取り組みを継続してほしい。そのためには、単位施策の中でも指摘した壮年期への対策は必要不可欠であると思われる。ぜひ、企業も巻き込み市全体で対策することにより、ひいては健康寿命の延伸につなげてもらいたい。 市では、健康都市宣言もしているが、市民に浸透するような対策をお願いしたい。また、市を挙げての具体的な対策として、「減塩に取り組む」など、健康都市ならではの市民を巻き込んだ対策を取り入れても良いのではないかな。								
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称					トータルコスト(千円)	達成度	
	4303	母子保健の充実					250,049	99	
	4302	市民の健康づくり支援					326,743	92	
	4301	予防対策の強化					835,238	88	

基本施策評価表 補表

施策	43 健康づくりの充実		
区分	妥当性	妥当	健康増進法等法令で市が実施すべき事業であり、健康づくりを推進するため妥当である。
	コスト削減の余地	有	事業の統合化を図ってきており、内容を検討することによってコスト削減の余地はある。
	受益者負担	適正	健康づくりは誰でも取り組めることが必要であり、受益者負担を求めることは好ましくないため適正である。
	上位貢献度	有効	健康づくりを充実させることは、健康で生き生きとした生活につながることから、貢献度は高い。
	類似事業の有無	無	健康づくりを総合的に推進している類似の事業はない。
	成果向上の余地	有	成果指標のうち目標値が達成できていない内容については、強化して取り組むことにより、成果向上の余地がある。
内部評価	貢献度	本市では壮年期の死亡率が国や栃木県と比較し高い状況であり、乳幼児期から早期に健康づくりを支援し、健診や教室等による早期発見・健康増進等を図ることは、健康で生きがいを持てるまちづくりに大きく貢献する。	
	達成状況	3つの成果指標を見ると、心疾患の死亡比は年々減少している一方で、がんはわずかに上回り、また、脳血管疾患では目標値を大きく上回る結果となっている。疾患を予防するための取り組みを行っているが、特に脳血管疾患の死亡比は高齢者数の増加とともに罹患者も増えている傾向がみられる。 単年度で達成することは難しい状況であるが、今後も引き続き予防対策等健康づくり支援を継続していく。	
	課題	3つの成果指標のうち脳血管疾患の死亡比が高い状況である。その基礎疾患となっている高血圧・糖尿病・脂質異常症等で受診している人が多いことから、医療機関と連携しながら疾患の管理を支援しつつ、集団及び個人に対する事業を通じて予防に力を入れていけるよう検討が必要である。	
	取組方針	健康増進計画会議を通して関係課や関係団体と現状を共有するとともに、重点領域を絞って健康づくり支援を行う。	